

平成26年度第6回移動市長室会議録

(平成26年8月21日)

1 日 時：平成26年8月21日（木曜日）13時25分～15時30分

2 場 所：曙町公民館

3 出席者：

『曙町区』

森部区長、曙町区、福祉部、老人クラブ、防犯パトロール、子ども見守り隊、福祉サロン など（18人）

『筑紫野市』

藤田市長、北橋総務部長、熊手建設部長、森総務課長、宗貞戦略企画課長、
檜木秘書広報課長、濱崎総務担当係長、野坂広報広聴担当係長、
松隈総務課主任、藤田総務課主事、末吉秘書広報課主任

4 内 容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） ただいまから平成26年度第6回移動市長室を開催させていただきます。

本日の懇談は、お手元の次第のとおりに進めさせていただきます。この後、藤田市長の挨拶、森部曙町区長の御挨拶、出席者の自己紹介、曙町の安全・安心活動、サロン活動などの説明、要望・回答、その他意見交換、市長による曙町に関係します平成26年度の筑紫野市の主な施策概要の説明をさせていただきます。

本日の懇談内容は、会議録を作成し、公表させていただきます。また、お撮りした写真は、市の広報紙やホームページに掲載をさせていただきます。

では、まず初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。まず、あいさつに先立ちまして、昨日20日未明に広島市で起きました大雨によります土砂災害につきましては、甚大な被害が確認されつつあるところで、深夜の豪雨、雷鳴、暗闇の中、被災された方々の恐怖は誠に筆舌に尽くし難いものであったと察し、胸が苦しくなる思いがしているところでもございます。行方不明の方々の一刻も早い発見と亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

さて本日は、平成26年度第6回、通算しますと38回目の移動市長室として、曙町区の皆さんと懇談をさせていただくことになりました。森部区長をはじめ、町内会役員の方、また福祉部や老人クラブ、防犯パトロール、子ども見守り隊あるいは福祉サロンの皆さん方、筑紫野市を代表していろいろとお世話をいただいている皆さん方との懇談が今日ここに移動市長室としてできますことを心から感謝を申し上げます。

昨年度からの移動市長室では、特色のある取り組みを行っている地域の方々のお話をお伺いして議論を深め、これを市政に生かしていくこと、また、市民の皆さんに市政を身近に感じていただくことを目的に、行政区での開催に力を入れているところでございます。

曙町では、防犯パトロールや通学路の見守り活動などが積極的に行われているとお聞きしております。犯罪者が嫌うのは住民同士の連帯感であり、地域住民が一体となって取り組む自主防災あるいは防犯パトロールは、犯罪者側から見ると犯罪あるいはそういうふうな事件に結びつきにくい行為だと思われまます。

また、住民同士の連帯感が強まるような行事を、サロン活動として開催されていると伺っておりますが、本日は、曙町の活動についての説明と課題などをお聞きしながら、懇談をさせていただきますので、最後までよろしく願いを申し上げます。これで挨拶に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

○（事務局） 続きまして、森部区長、よろしく願いします。

○（森部区長） こんにちは。区長をしております森部です。本日は曙町での移動市長室を開催いただくことに大変ありがたく思っており、御礼を申し上げます。

さて、市長からもお話があったんですが、不安定な天候の続く中で、いろんなニュースとして、各地では突然の災害ということが発生し、その対応にいろんなセクションでは、てんてこ舞いの思いがされてあるんじゃないかと思うところです。この町内にも土砂災害区域ということでの指定がされてあるところが数カ所ございまして、ああいうニュースを見るたびに同じような災害が起こらないようにということを祈りながら、犠牲になられた方々のことも思いをはせながら、この何日間のニュースを聞いているところでございます。

そういう中で、本日移動市長室の中に私どもの日常の活動を説明することによって、曙町の安心・安全ということについての日常の活動を御説明しながら、これから先のいろんなことについての御助言もいただきながら頑張っていきたいと思っております。

本日の移動市長室が有意義な時間になりますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。簡単ではありますが御挨拶にかえたいと思います。ありがとうございました。

○（事務局） 続きまして、出席者の自己紹介です。

まず市役所側から行います。司会を務めさせていただきます秘書広報課の榎木です。

○（北橋総務部長） 総務部長を務めさせていただいております北橋です。先ほど森部区長からの御挨拶の中にもありましたけど、ここ1週間ちょっと不安定な天候が続いておりまして、災害がないように私ども努めておりますし、行政区におかれましても区長を中心としながら自主防災組織を立ち上げていただいて、その連携に努めていただくことに本当に感謝申し上げます。

○（熊手建設部長） 建設部長を拝命しております熊手です。皆様と一緒に曙町をよくしていきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○（総務課） 総務課長の森です。

○（戦略企画課） 戦略企画課長の宗貞です。

○（総務課） 総務課総務担当係長の濱崎です。

○（総務課） 総務課総務担当の松隈です。

○（総務課） 総務課総務担当の藤田です。

○（事務局） 秘書広報課広報広聴担当係長の野坂です。

○（事務局） 秘書広報課広報広聴担当の末吉です。

○（事務局） 続きまして、曙町の皆様、お願いします。

- （森部区長） 区長をしております森部です。声が大きいということが取り柄でありますし、人様からも大きいということで習い覚えがよく覚えてもらっております。
- （曙町区） 副区長を今年からさせていただいております原田です。去年の3月まで会社勤めをやっていたとして、退職後、去年たまたま回ってきた隣組長をさせていただいて、その関係で町のイベントとか少し接点ができ、今年は副区長という立場になりました。後ほど安全・安心活動のところを私から説明させていただきますけども、何せまだ副区長になって短くございますので至らぬと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。
- （曙町区） 書記をやっております吉瀬です。私、第2の職場を終わりました、昨年、二日市北小校区のスポーツ振興の役員、それから今年の春から、この書記という役です。何せ現場での仕事ばかりで、事務的な能力が劣るということで毎日頑張っております。特に敬老会につきましては293名という方がおられます。その色分けに大変今苦勞しておるところです。
- （曙町区） 会計を担当しております原竹です。2年目になりますが、去年1年間会計を担当しましたので、大分中の様子がわかってまいりまして頑張っているところです。1,000世帯という大きな世帯の会計ですので、やはり結構な大金を扱いますので、緊張しながら務めさせていただいております。
- （曙町区） 公民館主事をさせていただいております松永です。3年目になります。モットーは「笑顔を忘れないように」と心がけております。
- （防犯パトロール） パトロールに参加させてもらっている山口です。
- （防犯パトロール） 防犯パトロールをやっております大林惣徳です。朝、子ども見守り隊で、よかったなと思うのは、当初子どもさんたちは、挨拶しても黙っていたのが、最近では、「おはようございます」と逆に言われまして、何かするとハイタッチする子もおりまして、非常に見守りしてよかったなと思います。
- （子ども見守り隊） 子ども見守り隊の隊員として活動させていただいております松島です。現在私どもの朝の見守り隊、今は「おはよう隊」と言っておりますけども、三洋電機跡地に建ちましたフォレストガーデン、それからはるかの街、ここから77名の小学生が通学しております。今、大林さんから話がありましたように、最近よく挨拶をしてくれるようになりました。また、スーパーとかコンビニで会っても、「あ、おじちゃん、こんにちは」と、逆に子どもたちから声をかけていただくようになりました。現在町内で12名のうち3名、それから、はるかの街とフォレストガーデンから父兄の方がそれぞれ2名出

てきていただいて、合計5名で活動をしております。子どもたちに「こんにちは」、「おはよう」という言葉をかけていただくと、子どもたちも喜ぶんじゃないかと思います。ぜひ皆さん方のお力を得ながら頑張っていきたいと思っております。

○（福祉部） 中村です。役員の皆様方のお力で、筑紫野一番のチームワークのいい町内だと思っております。何かと器用さを買われて協力させていただいております。

○（老人クラブ） 老人クラブの会長をしております光安です。今年4月からですから、今、手探り状態で四苦八苦しておるところでございます。老人クラブもなかなか会員が増えない状態です。私たちのところも会長から、ぜひ会員を増やすようにとハッパをかけられているところです。

○（福祉部） 若狭です。今日の出席では最長老の81ですが、出てこいということで参加させてもらっております。後で報告があると思いますが、区長時代に福祉部を立ち上げたり、パトロールを立ち上げたりして、現在までみんなが継続してもらっているのが本当に感謝いたしております。

○（福祉部） 昨年の12月から民生委員・児童委員をしております田中賢一です。仕事はもう第3の仕事に入っていると思ひまして、前、上野教育長と大野城市で一緒に仕事したこともあります。今後は、40年も曙町に住んでおりますが、地域福祉のために全然お役に立てませんでしたので、これを機会に三浦健治さん、今日はお休みですけども、それから原田みどりさん、3人の民生委員で地域福祉促進のために頑張りたいと思っております。

○（福祉部） 島村です。私は3月まで町内の役員をやりまして、今は福祉部員ということでパトロールやあるいは見守り、いろんところで頑張らせていただいております。もうリタイアしてから10年以上になりますが、地域活動は初めてだったものですから、いろん戸惑いもありましたけど、皆さんと近づきになりまして非常に楽しくやっているところです。

○（老人クラブ） 山本です。施設の清掃などをやっています。

○（老人クラブ） 山本です。市老連の二日市東地区の副部長をさせていただいております。

○（福祉サロン） 福祉委員をしております田中壽子です。私も教育長の上野二三夫先生とは大野城市の校長会で御一緒しておりました。現在運動サポーターとして、特に町内の高齢者のための健康教室をはじめ、サロン活動に参加させてもらっております。後ほど、いろいろと説明させていただきます。

○（福祉サロン） 中村彰子です。曙太鼓をしていた関係で体育振興委員をずっとしていま

して、それから福祉委員に突入し7年目になります。「元気で明るく」をモットーに頑張っています。ここの町内会は区長さん初め、町内会の皆さんも老人会の皆さんもとても優しく、楽しく活動させていただいております。

○（福祉サロン） 民生委員をしています原田です。曙町内会のことは、いろいろ役員をしたり、福祉委員をしたり、民生委員をしたり、20年近くかかわっております。

○（事務局） どうも皆さん、ありがとうございました。

それでは、活動報告に入らせていただきます。森部区長、原田副区長、それから田中さんから話をお願いします。

○（森部区長） それでは、ただいまから曙町の概要をお話を申し上げたいと思います。まず、この曙町が誕生した経緯として、先輩方からいろいろお話を聞いたり、この公民館ができて20年経って、区切りのあったところで、冊子をつくっていただきました。この冊子は、御参加の若狭さんの執筆によるところで、その内容の中から御紹介をしたいと思います。

昭和33年に当時の報国という行政区から東新町、紫、曙ということで分割されました。曙町の名称についても、当時の皆さん方のいろんな論議があったようにお聞きしているんですが、東のほうから日が上るということで、それに付随して、ちょうど報国の区域の東のほうに位置するから、曙という町名にしたらどうかということで、この曙町という名前が選ばれてつけられたとお聞きしております。

当時の世帯数としましては、記録によれば44戸で人口が185人だったということで、ごんまりした当時の状況だったというふうに思われます。

曙の現況と現在私どもが携わっております活動としまして、今年6月現在の世帯数が1,124戸、それから人口としまして2,716名という数字を積み上げておりますけども、先ほどの発足当時の数からすると、世帯数で2.5倍、人口としては1.5倍という数字にどんどん膨らんでいて、こういう人口増、世帯増は、今後なおますます曙町は増えてくるような状況だと予想しております。

現在私どもが取り組んでおりますいろんな活動につきましては、5つ示しておりますけれども、本日は3つの活動について具体的な説明をさせていただきます。

これらの活動を賄う裏づけについては、年間980万円という予算で動いておりますが、1,124戸が世帯数の住民登録の人数なんですけども、町内会加入者は、そのうち丸々加入はありませんで、940名ほどの世帯の数で町内活動をしておるところで、それぞれ

の方から月額500円という町内会費をいただいて運営しており、それに不足する分は市からいろんな助成金とか補助金とかいうところでいただいて、この町内活動を賄っておるような状況です。

現在の公民館の状況としましては、当初できるときは何か建物がないと皆さんが集まる場所ができないからという経過の中でこの公民館ができたんですけども、昭和57年に立ち上がりまして32年経過し、歩けばミシミシ音がするし、それからピンポン球とかも廊下に置いていたらごろごろと転がっていくような自然勾配が出てきているような状況もありますので、いよいよ建てかえ等々についての論議をしなくちゃいけないということを私どもとしては考えています。

建て替えに伴っては、この9月、来月に準備会という委員会を発足させて取りかかろうということで、来年4月の定期総会には建設委員会等、その中で建て替えに伴う準備を遂行していこうと思っております。今、平成29年をめぐりに、この公民館が35年程度を迎えるところを見計らって完成を目指しておるところですので、それに向かって市のいろんな御支援とか御協力を、またその時点ではよろしくお願い申し上げたいと思います。

これから先、私どもはこの曙町の公民館をキーステーションにいろんな情報を発信し、いろんな活動の拠点として福祉サロンとか、いろんなボランティア活動とかいうものをしてまいりますので、この公民館がないことには何もできないと、それはもう町内の皆様が思っているところでもあります。

これからあとの分については、先ほど災害のことについてお話したんですけど、自然災害以外の安全・安心というものについてということも、私どもが日常の活動の中で、明るいまちづくりをしておるところでありますから、副区長の方から説明をしていただき、よく曙町の実態を市長におかれましては御認識いただいて、よろしく御指導いただくようお願い申し上げます。

○（曙町区） 改めまして、原田です。私からは曙町が取り組んでいます安全・安心活動の説明をさせていただきます。いろいろ安全・安心活動も幅広く取り上げてあると思っておりますけども、今日はその中で防犯パトロールと子ども見守り隊、その2つに絞って御紹介を申し上げます。

まずは防犯パトロールですけども、通称「かちかち隊」とも言っております。相撲の拍子木を使って、かちかち言わせながら回っているというような状況です。

経緯を申し上げますと、平成16年11月、若狭さんから話がありましたように、曙福

社部による防犯パトロールというのがスタートいたしました。当時、町内に不審者の出没、それから空き巣狙いが大変多発しておりました。ここは警察官のOB現職が住む団地、警友団地と言っておりますけども、こういうふうな状況がございました。これを背景に防犯パトロールがスタートしました。

当時、チェックポイント表をつくり、単に防犯パトロールを回るだけじゃなくて、危険箇所とか問題となるような箇所を点検しながら、それに対して早期発見、すぐに対応するというようなことを念頭に活動を行っていたというような状況です。

10年経過いたしました。現在ではというところですけども、毎週2日、月曜日と木曜日を二日市北小学校の小学生の下校時間を見計らって、3時半からの4、50分ぐらいパトロールをやっております。メンバーはボランティアを中心に10名ほどで、これに今、夏休みですけども、この期間中は中学生のボランティアも大体1回当たり5名相当参加していただいて、町内を6コースに区分し、巡回するというようなところなんです。

それから、別に年末の夜警パトロールを実施しており、これはまた別の意味合いで、まさに年末の夜警です。夕方、夜というような時間帯で、町内の組長も参加いただいて、25名ぐらいで班分けをして巡回しているというパトロールです。

パトロールのためのユニフォームを準備しております、ブルゾンと帽子、曙町防犯、防犯パトロール、そんなことをつくって、参加の皆さんに着用していただいて巡回するというような状況です。

先ほど6コースと言いましたけども、二日市北小学校の横に公民館がありますけども、小学校をぐるっと1周して、今日は警友団地コースを回ろうと、次はこのコースを回ろうというようなことで、巡回しています。

これから何枚かパトロール実施中の写真ですけども、ごみ袋とはさみを準備して、ごみを回収しながらパトロールをやっておるというような状況です。

防犯パトロール、少し課題がありまして、3点上げていますけども、防犯パトロールを充実させるという意味合いで、今年4月から軽4輪トラックを購入しましたんで、この軽4輪トラックをもっと防犯パトロールの中で活用していこうと考えております。

2つ目に青色パトロールですけども、8月4日に市長名で私ども曙町に青パトを委嘱するというのをいただきました。9月の中旬ぐらいですけども資格を取得する予定です。

それから、ボランティアメンバーが10名ほどと言いましたけども、もう少し皆さん参加しませんかということ呼びかけているような状況です。

続いて、2つ目の子ども見守り隊、別称「おはよう隊」とも言っております。

こちらの経緯を申し上げますと、平成24年9月に立ち上げを行っていきまして、それ以前には松島さんが個人的な活動としてお一人でされてあったんです。それを組長会議を通じ町のほうでも取り上げ、皆でやろうというふうに今日に至ったというような経緯です。場所は紫3丁目の信号機がない交差点。後ほど詳しく申し上げます。

それから、こちらにもボランティア12名になっています。毎週、月曜日から金曜日の小学生が登校する日を対象に、朝の7時40分から8時20分ほどということで児童の誘導をやっています。

経緯はそういうスタートでしたけども、その間去年10月に保護者の方、先ほど松島さんの紹介がありましたフォレストガーデン、はるかの街の御父兄の方にもぜひ一緒にやりましょうということで、50名が参加をされました。そういうことで、今までの1カ所が複数箇所というような立ち位置になりまして、非常に充実しているというような状況です。

今現在ですけども、ボランティア12名と申し上げましたが、メンバーが月曜日はこの方とこの方、火曜日はこの方というふうに交代をしまして、保護者の方も交代しまして、見守り活動をやっているような状況です。

ユニフォームを準備しまして、さっきの防犯パトロールとちょっと似通っていますが、こちらは交通パトロール、帽子も交通安全町内会、腕章もつくりまして、これも交通安全ということでユニフォームを準備してやっております。

去年でしたか、防犯パトロールのほうも、この交通安全のほうも県の補助をちょうだいして、おかげで充実したユニフォームができ上がっています。

それから、新しい団地からの児童数が増えていきまして、去年67名が今年は77名というふうに、6年生の卒業生よりも新しく入ってくる1年生のほうのはるかに多いというような状況で増えています。来年はもっと増えると聞いていきまして、近々100名には早い時期に到達するんじゃないかと思われまして。

先ほどお二人の方が言われましたけども、本当に子どもたちが大変元気よく挨拶してくれます。こちらにも「おはよう」というような感じでやっております、大変やりがいを感じるというようなところだと思います。

実施場所ですけども、ここが変則になっている4交差点でありまして、大体子どもたちは、この赤い矢印で学校のほうに行くわけですね。そこで、ここの道路を渡るというようなことで、車が4差路になってますんで、この1、2、3というところを中心に私どもは

立っております。父兄の方に4、5という位置にも立っていただいているような状況です。

実施中の写真です。横断歩道を渡っているわけですが、大体集団登校で動いています。以前はばらばらでしたけど、学校とか父兄の指導も最近行き届いていまして、このように集団で動くというような状況になっています。

西鉄紫駅のほうから来る自転車が、高校生の通学の自転車ですね。これもすごいです。今は自転車は車と一緒に左側通行ですよ。自転車が左側通行し、この道から出てくると、渡って左側通行するか、押して歩くというような状況なんですね。大変入り乱れています。

最後になりますけども、子ども見守り隊の今後というようなことで、2つ課題として上げています。

1つは、ボランティアメンバーの増員。組長会議あたりで頻繁に呼びかけていますけども、正直言って少し年齢の結構高い方が頑張っているんですよ。中には腰も痛んだというような状況の中でやってあるんで、できるだけ若返りを図り、もっとスムーズに交代ができるようにというようなことで、呼びかけをやっているような状況です。

もう1つは、やはり信号機が早くつくといいなと思っています。この件につきましては、本日の要望事項というようなことで申し上げたいと思いますけども、信号機なり何らかそれ以外の方法含めて、ここの改善を望むところでございます。以上でございます。

○（福祉サロン） 福祉委員の田中壽子です。曙町が取り組んでいるサロン活動、あけぼのサロンについて、私から説明させていただきます。

あけぼのサロンの誕生は、今から13年前の平成13年12月です。当時大人中心のカラオケの集いから子ども参加型のサロンへ、そして名称をあけぼのサロンとして活動が行われてきました。

今ではあけぼのサロン活動は、とても多彩な内容となってきました。主な行事としては、表のとおりです。ただ、夏祭りは平成9年に廃止されており、この夏祭りにかわるイベントとして当時の役員はいろいろ模索されたと聞いています。平成14年に「曙の自然と環境を守る会」が設立され、蛍の育成と花いっぱい運動がスタートしましたが、蛍がうまく育たず、この会は平成22年をもって解散といった経緯があります。その後、ボランティアの方々の支えも広まって各種行事へとつながっていきました。子どもたちへのメッセージばかりでなく、高齢者向けのメニューも取り込みました。本日はこれらの行事について、活動の状況をご覧ください。

まず、高齢者のための健康教室について説明します。ボランティアの運動サポーターの協力で、健康教室が盛り上がりを見せています。第2、第4水曜日の1時半から3時までの1時間30分、工夫を凝らしたメニューで参加者の充実感120%です。家に閉じこもりがちな高齢者に呼びかけてコミュニケーションを図り、運動を通して寝たきり予防の一端となるよう実践しているところです。昨年は年間24回、延べ604人もの参加がありました。雨の日も雪の日も休まず1年間皆勤賞の人も6人から7人ほどいます。

これは、健康教室の様子です。ストレッチやタオルやボールを使っての介護予防体操、音楽を取り入れたリズム体操など、楽しく活発に活動しています。毎回20人から30人前後の人が集まっています。水分補給のための10分間の休憩、お茶タイムもお話が弾んでコミュニケーションの場となっています。

参加者の方からは、「最近きつくて外にも出たくないけど、ここに来ると元気になります」とか、「ここで習ったことを家で毎日2時間やっています。おかげでこんなに元気ですよ」と言って、足を高く上げてみたり、「こんなに体が柔らかいですよ」ということで柔軟を見せてくれる人もいます。また、「足が痛くて夜なかなか寝つけなかったんですけども、ここに来るようになったらとっても気持ちよく休めるようになりました。どうしてもお礼が言いたくて」とわざわざお礼を言いに来られた方もいます。サポーターはそんな声に励まされて、やりがいと元気をもらって頑張っているところです。

先月7月4日は、高齢者の健康学級と老人クラブときわ会の誕生会がありました。今回は4月から9月の誕生者26名を対象に開催しました。これは、誕生会の記念写真です。当日笑いヨガの効果もあって、全員のワハハという笑い声が聞こえてくるようです。

次に、社交ダンスについて説明します。社交ダンスも月に2回開催しています。参加者は20名程度です。これは、社交ダンスの練習をしているところです。ステップも軽やかに顔は朗らかに、そして口も滑らか、おしゃべりも続いています。このときばかりは服装もちよつとばかりおめかしして、実年齢よりも10歳ぐらい、20歳ぐらい若返った気持ちで踊っています。高齢者の生きがいづくりの一端となっています。

次に、毎年7月に開催しているそうめん流しについて説明します。今年は7月27日、日曜日に開催しました。参加者は150名、昨年が130名でしたので、今年はさらなる増員で大盛況でした。

これは、そうめん流しの準備として、まず竹を掘っているところです。足場、足元に注意しながら、声をかけ合っただけの作業です。長さ6メートルの竹を3本とってきて、公民館

で竹を割り、節とりを行っているところです。竹割り名人が腕と技を披露してくれて、竹は見事に2つに割れました。

これは、そうめん流し、当日の開催状況です。ご覧のとおり見事な場づくりで、これらは男性ボランティアの方々が事前につくったもので、たくさんの技や技術が生かされています。竹割りにしても水道の設置にしても、プロの技やみんなの力が結集されてでき上がったものです。

10時30分から第1班、11時30分から第2班の2つのグループに分けて実施しました。約150人という大勢の参加者にもかかわらず、森部区長の綿密な計画のもと、調理場ではそうめんをゆでる人、氷水で麺を締める人、そうめんのつゆを配る人、炎天下でそうめんを流す人、排水が詰まらないように管理する人、参加者の安全、とりわけ子どもたちが車の通る道路に飛び出さないようにと見守る人など、スタッフの見事な連携で安全で楽しく、そして冷たくておいしい大盛況のそうめん流しとなりました。

親子連れで小さいお子さんもたくさん来てくれました。食べた後の器や箸をきちんと片づけて、「ごちそうさまでした、冷たくておいしいそうめんをいただくことができました」と、親が子どもに指導して一緒に御挨拶に来られる人たちもいて、曙の未来はすばらしいなと心強く感じる場面があります。企画してくれた本部の方々とボランティアの方々の惜しみない努力と参加してくれる人たちとの温かい心の通い合う場となりました。

次に、芋掘りを紹介します。11月の開催で、今年は11月23日、日曜日を予定しています。昨年は70名の参加でした。これは、芋畑の草取りの様子です。今年は6月14日土曜日に、本部の役員、老人会の有志の方々、それにボランティアの方々のお力をいただいて芋の苗植えを行い、その後7月14日、22日、8月18日と暑い中、早朝より草取りを行いました。おかげで芋の苗は雑草に負けず勢いよく育っています。

これは、昨年の芋掘りの様子です。11月後半に芋の収穫をします。昨年は70名の参加で、芋の収穫は500キログラムありました。収穫した芋は、ここの公民館で大学芋にして、参加者全員に食べてもらいました。さらに一人一人収穫した芋をお土産にお持ち帰りしました。また、収穫した芋の一部を町内デイサービスに提供しています。お年寄りからも喜ばれています。

最後に、暮れの餅つきについて説明します。今年は12月23日、祝日を予定しています。これは昨年の餅つきの様子です。昨年の参加者は130名、ついた餅米は60キログラム、今年はさらに増えることと思います。老人クラブ、ときわ会、独居者にも、つきた

てのあんこ餅を届けます。

全ての活動にボランティアの方々が積極的に参加、お手伝いされています。餅つきではキャリアある御婦人の参加なくしてはとても行事になりません。御婦人方こそ縁の下の力持ちで、ありがたい限りです。つきたての餅を大根おろしにしたり、きな粉餅にしたり、あんこを載せたりして、参加者にこの場で食べてもらっています。おいしくて何度もおかわりをする人もいます。お腹いっぱいいただいて、おしゃべりも弾みます。今年も昨年よりたくさんの方々に参加していただけることを期待しているところです。

以上、現在取り組んでいるサロン活動のあらましを報告させていただきました。これらのサロン活動の参加者も年々増加しています。また、活動をするに当たって、たくさんの方々に積極的に参加いただいています。今後町内の全員が、あけぼのサロンの交流の場を通して、つながり合い、生きがいを持って、元気で助け合う町内活動を目指し、さらなる充実を目指したいと思っています。これであけぼのサロン活動の説明を終わります。

○（事務局） どうもありがとうございました。皆さんがそれぞれの事業において日ごろの連帯を大切にされ、仲よく積極的に取り組まれている様子がよくわかりました。

せっかくでございますので、防犯パトロールと子ども見守り隊を立ち上げられた創始者の方がそれぞれおいでいただいているようですので、少し当時の苦労話とか、そういったところをお伺いさせていただこうと思います。

先ほど若狭さんから、区長のときに福祉部と防犯パトロールを立ち上げたというお話がございました。立ち上げられたときの苦労話とか、経緯をお話いただけますか。

○（福祉部） 経緯は大体先ほど説明があったように、警友団地、警察の本拠に空き巣が入ったりするというので大変困って、特に二日市北小学校のところでは不審者がしょっちゅう来て、子どもが右往左往するというようなことでしたので、福祉部を立ち上げて、当初は福祉部は女性もたくさんパトロールで、今見たらどうも男性ばかりのようで、最初は華やかにパトロールしていましたけれど、なかなか人数が集まらなく困ったことでした。

最初は子ども中心にするか、家庭の不審者予防に中心を置くかと、いろいろ苦慮したわけですが、両方兼ねて3時ごろから、全体を兼ねて全体を回ろうということでやってきました。それを現在までにぴしゃっとみんな、私は現役を引退しておりますけど、みんなでやっていただいて本当感謝しています。

○（事務局） わかりました。拍子木を使われてあるということですが、それから「か

ちかち隊」という名前がついたんでしょうかね。

○（森部区長） そのとおりです。私が名づけました。何か名前つけたらどうやろうかと出たから、かちかちとするから「かちかち隊」にしましょうと言ったら、いいですよと一声で決まりました。私が名づけ親です。

○（事務局） 名づけ親の方に改めてお尋ねしますが、拍子木を用いることの利点は何かありますか。

○（森部区長） それは注目してもらうのがもう一番です。この拍子木は、そんじょそこらにある拍子木じゃないんですよ。もう立派なもん、一遍聞かせましょうか。

（拍子木が鳴る）

○（福祉部） 最初は木の普通の拍子木でカチャ。全然響かないもんですから、いろいろしていたら黒檀のが手に入りましたので、これは向こうの谷まで響く。今パトロールやっているなど、非常に地域の人にもわかりやすい。

○（事務局） それをたたくことによって、ものすごく響きますね。

○（森部区長） ここ最近では、軽4輪も町内で買ったもんですから、このマイクスピーカーを使って「パトロールで回っています」、「今日は二日市中学校ボランティアの子たちも一緒に回ります」というようなことをPRして、それも一緒に兼ね備えて、これから先は回っていこうかと、青色パトロールが9月になったらいただけるということになりますから、そういうふうな段取りで進めていくようなことは考えております。

○（事務局） それでは、松島さんが子ども見守り隊を2年前に個人活動として始められ、それが今、大きく充実、発展をしておるといふ報告をいただいております。始められたのは大変だったことではないかと思えますけども、いきさつや思い、苦労話、そういったところをお聞かせいただけますか。

○（子ども見守り隊） 始めたのが2年前の平成24年6月ですね。組長をしておりましたので、組長会議の中で、むさし整骨院の前の交差点は危ないんですけど、信号か何かつく予定はないんですかというような質問をしたのが始まりでした。実はそういうふうにしていきたいということで区長からもお話をいただいていたんですけども。

実は私には小学校に通っている孫がおりまして、この子たちがどういうふうにしてここを渡っていくのかなというのを想像したもんですから、危ないなと思いながら、じゃ、あそこの交差点を何とかして渡してやろうということで、何もなのまま手で車をとめながら子どもたちを渡しておったんですが、たまたま二日市北小学校の女の先生だったんですけ

ど、交通の旗を持ってきていただいております、先生が帰られるときに、「これは使いますか」と言われたものですからうれしくて、それからの始まりで続けていたところ、町内で早速取り上げていただいて、では、そういう見守り隊を発足しようじゃないかということで、9月に発足をしていただいて、今に至っております。

子どもたちは、さっきも話がありましたけど、最初のうちは何かぶすつとしたようなことで挨拶も返ってこないんですね。「おはよう」と言ったら、最近では返ってきますけども、ぶすつとしたから、「あれ、今日は元気ないね」とか声をかけてやりますと、「おはようございます」と大きな声が返ってきて、今ではちゃんと交差点を渡るときも手を挙げて渡ってくれるようになりました。

こういったことで私たちが活動していると、ほとんどここを通る人たちは同じ時間に、車の運転手さんたちも同じ時間に多分通るんじゃないかと思っています。ですから注目をしていただいて、子どもたちの安全を守っているんだなということを気にかけていただければ、さらに安全につながっていくんじゃないかなという気もしております。ぜひまた町内の皆さんの御協力を得ながら、また保護者の皆さんの御協力を得ながら、こういった活動を続けていきたいと考えております。

○（事務局） ありがとうございます。それから、サロン活動も教えていただきたいと思えます。先ほど参加者の方から120%満足の声が聞こえてきていますとありました。具体的に健康教室の参加者からどういった声が聞こえてきていますでしょうか。それからお世話されていらっしゃるスタッフの方々はどういった楽しみで運営をなさっておりますか。

○（福祉サロン） まず、健康教室の参加者の方からは毎回、帰りに名札を返すときにいろいろ「ありがとうございました」とか「こんなことでこういうことがありました」と、楽しく会話をしながら帰っていかれるので、大体その日のいろんな状況、雰囲気はわかって楽しく過ごしています。

実はここに3人いますが、曙町の健康教室を立ち上げたお2人ですので、お2人からも一言ずつ言ってもらえたらと思います。

○（福祉サロン） 私は運動健康サポートもしていたんです。3月まででちょっと忙しくてやめたんですけども、高齢者支援課で元気教室をしたんですよね。そのとき参加者が多かったんです。だからうちのサロン活動も、いろんな行事をしていたんですけど、体操が今はみんなしたがってるんじゃないかなと思って、サポーターの担当者をお願いしたら「いいよ」と言ってくれて、それから健康推進課長あての書類を書いて、サポーターを回しても

らって、自分たちも結局サポーターになったんですけども。そういういろんなのがあって、今、参加者も増えております。

- （福祉サロン） その前の立ち上げの段階で手づくり教室もしたし、バスハイクもしたし、料理教室もしたし、もうありとあらゆるものをして、計画して頑張ったんですけど、やっぱり一番根づいたのは健康教室でした。

それともう1つは、パソコン教室をしまして、講師として市のボランティアの先生なんですけど、2年間でやっぱり続けられなかったんですよ。すごい惜しまれたんですけど、やっぱり参加者からお金を集めるのはサロンとしては納得いかないということで、何かということをして2人で模索して社交ダンスを始めたんです。今社交ダンスは一生懸命で楽しいと思うんですけど、大林さん、参加していらっしゃるんで、一言お願いします。

- （防犯パトロール） 今はもう健康のために踊りますと、汗びっしょりになるんですね。タンゴとかなかなか踊れませんけれども、健康第一として非常に楽しみにやっております。

- （福祉サロン） もう1人島村さん、いいですか。

- （福祉部） 私の参加の動機は、ちょうど5年前に脳梗塞で倒れて、今グラウンドゴルフとかあるいは社交ダンスをやっていますが、リハビリのつもりでやっていて、ちょっと麻痺が残っているもんですから、女性に迷惑をかけちゃいかんと、そればかり思いながらやっております。リハビリというような意味なんですけど、非常にいい結果をもたらしているんじゃないかなと思うています。

- （事務局） ありがとうございます。本当にいろんな数のサロンが、よそと比べてあっているのが、ここの特徴じゃないかなと思っております。これからはますます充実されることを願っております。

次は、要望事項で、森部区長からお願いします。

- （森部区長） では、要望事項を申し上げます。先ほど安全・安心活動でも申し上げましたけども、紫3丁目の交差点への信号機の設置です。

場所としましては、紫3丁目の変則交差点、十分御認識なところだと思うんですが、この地図、曙町の町内があって、西鉄紫駅のほうからの県道が通っておりますが、二日市北小学校がここにあり、ここに新しい団地があるところで、先ほども論議になっているのが、ここに信号機がないというのが、私どもがなぜないのだろうかということも含めて、通行する車、それから通学で通っていく高校生等々のいろんな状況を、要望するに当たって把握しなくちゃということで考えたところであります。

これまでの経過については、平成24年4月に組長会議において住民の方から要望が出されましたので、これを受けまして関係する各学校へ、こういう要望があったので私たち町内としても信号機の設置について動きたいということで打診をして、それについては車両の通行量調査を、私たちの身をもって実態を把握した上でいろいろ話の組み立てをしていこうということで、7月に車両通行量の調査、その後、その調査結果に基づいて署名活動を8月から11月にかけて町内全域、それから学校関係、それから近隣の行政区へも呼びかけしまして、12月4日に藤田市長へ要望書をつけてお願いに上がったのがもう2年ちょっと前のところです。

そういう調査をしました内容をお話しますと、時間帯として通勤・通学の時間の7時から8時半、それから12時から13時、15時から16時、16時から17時、そういう時間区分で、7月2日、4日、6日の3日間にわたって、通行量を調査しました。

各ルートでそれぞれの台数をはかりまして、この時間帯の中で、通勤の時間が一番危ないところであります。

地図上のABについては、Aについてはこちらから高雄のほうへ向かうのが540台ほど。実際の数字は700とか300とかいうような数字があるんですけども、平均値で540。それから、Bが逆に西鉄紫駅のほうに向かっていくのが700。それから、CD、BCは280、220。高校生の通学の自転車も数えています。それから、EFからFEも通勤者が抜け道ということで通過されて行かれる。そういうような実態がこの中で把握できたんじゃないかと。

そういう数字をもとに皆さん方に署名活動についても御協力いただいて、そして先ほど言いました市長への要望書を4,700の署名をいただいたところで一緒に添付してお出ししたということです。

朝の通勤時間、1時間か1時間半の時間の安全をいかに確保するのかというのが最終的な私どもの運動のつながっていくところになろうと思います。

市長へお願いしましたら、市から担当の窓口を決めなくちゃいけないということで、早速維持管理課が担当になりましたということで御挨拶があり、以後維持管理課と何回か折衝をしまして、筑紫野警察署にも出向いたり、それから県知事への要望書も市を通じてお出しするような手続を踏ましてもらい、それから地元の原竹県議、平井県議にも、こういう活動を私どもがしますのでというお願いをし、御協力をお願いしますということで動きました。

それから、そうした動きの中で、現地測量するというこの手順になりましたので、昨年12月と今年6月、県道敷、市道敷についての現地測量がなされて、実は昨日、それについてのある程度の成果品ができたということで、これから先をどうするかということを決めていきたいということのお話が経過報告の中で県の那珂県土整備事務所と市から一緒におみえになりまして、私どもの役員ベースのところでお聞きをしたところです。

この分については、私どもとしてはいつまでもずっとそれが長々続くのも、ちょっと釈然としないところがあるものですから、町内の皆さんにおいても、いつどうなるのかということは話を聞きたいということがあろうと思います。交差点の現状としましては、通行車両がこれから先もどんどん増えてくるという見通しは、それこそ交通量見てもわかりますし、実際に左右折、それから危険の度合いが大変高い交差点ではないだろうかと思っているんです。

それから、もう一つ気にしなくちゃいけないのは、高校生の自転車通学が先ほどもちょっとお話があったんですけども、高校生は自分が一番正しいというふうに思っているんだと思います。一番近いところで渡ろうとするものですから、学校の先生が立っているときは先生の言うとおりに行くんですけども、先生のいないときは自分のいい格好で通行していきますんでね。そこにそういう一つのルールづくりがあれば、私どもの交通見守り隊の立場も、少しはそういうふうなことも緩まれていくんじゃないかと思っています。

そういうことで、新しい団地が増えましたし、その団地にお住まいのお子さん方も今70名ですけど、100名ぐらいなってくるかわかりません。その子たちがずっと何年か続きますので、早く新しい施策を講じていただくようなことをお願いを申し上げます。

信号機をつけるというのが私は一番大目標にしているんですけども、なかなか信号機は市だけの動きだけでもできないし、県との協議もあろうし、警察との合議、そういうのが具体的にまとまらないとできないということで、そういう状況は十分認識しているんですけども、それはそれでそういう動きもしてもらおうのとあわせて、私ども地元としてもそれらに関係するいろんな地元としての動きが何か必要ならば、役員含めて、一緒にやらせてもらいますということの確認をしておるところであります。

事故が現に2、3あってはおるんです。V字型になっているところでドンとぶつかったりとか、随分前の話なんで、それは夜中だったからよかったんですけど、昼日中も自転車通学の子と単車が出会い頭につんのめったりというような状況の事故事例も聞いております。大きなけが人、そういう犠牲者が出ないうちに何とか施策を講じていただけたらと思

うところが、本日の要望の主内容であります。

時期的なものを私どもとしては聞きたいんですけど、こればかりは相手があるということでもありますし、なかなかその辺のところは思うとおりに進まないのはもやもやとするんですけどね。町内の皆さんの思いというのは、安全のためということに一点に絞られると思います。安全のためには子どもたちの安全のためもありましょうが、ドライバー自身の方の安全のためということも十分あると思いますので、そういうことを含めて今後の対応していただける市ないしは県の今後の導きに、よろしく願いをしたいと思います。

2年ほど前にそういうふうな動きを私どもは示したので、もうちょっとしばらくすれば市ないし県のほうの具体的な姿、形に見えたものが出てきてくれるんじゃないかと期待しておるところでありますので、その点ひとつよろしくお取り上げいただきまして、何とかよきお取り計らいをお願い申し上げたいと思います。よろしく願いいたします。

○（事務局） それでは、市から一定の見解なり現在の状況を回答させていただきます。本日、建設部長が参っておりますので、熊手からお話をさせていただきます。

○（熊手建設部長） 平成24年12月4日に提出いただきました信号機設置の要望書につきまして回答する前に、現地確認を我々もしておりますので、その状況からまず報告させていただきます。

7月17日秘書広報課と安全安心課におきまして、7時20分から8時40分、約1時間20分の間、現地調査を行いました。その間、交差点を通過する車両は1,266台でした。そのうち県道上下線を直進する車は624台、筑紫ガス前の市道を通過され県道に出入りする車が180台、はるかの街、鍬柄橋の市道を通過し、県道を出入りする車が462台となっております。歩行者につきましては、二日市北小学校児童が75名、二日市中学校生徒が32名、その他の通勤・通学などが55名でした。また、自転車につきましては、高校生の通学が518台、その他の通勤が114台で、合計632台が通行しているわけです。このような状況の中で、区長さん初め見守り隊の皆様の協力により事故がなく安全が確保されていることは大変感謝いたしたいと思っております。

さて、要望の回答でございますけども、筑紫野警察署から当該交差点への信号設置につきましては、現在のままの信号機設置は適さない道路構造であるがために、道路構造の改良が先決という御意見をいただいております。県道の道路改良につきましては、県知事への要望を受け、県により道路改良検討資料作成のための測量が実施されているところです。

今後は県の道路改良案が提示されましたら、それをもとに接道する私ども市道につつま

しても筑紫野警察署と協議を行いながら、信号機設置とあわせて検討を進めていくこととなります。市といたしましても、早期実現に向けて県及び警察署への働きかけを続けてまいる所存であります。

私も実を言うと高校のとき通学した者でありまして、それから信号機設置されないまま、危険のこともよくわかっておりますので、所管であります維持管理課とともに、一日も早い実現を目指してまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。

○（森部区長） ありがとうございます。早期実現をよろしく申し上げます。

○（藤田市長） 今、話がありましたとおり、具体的には2年くらい前から森部区長から陳情いただいたんですが、それ以前にも若狭元区長の頃から、あそこをどうにかしなきゃいけないという歴代区長から要望があっているところです。

私も県議会におりまして、そのことは聞いておりまして、現在は原竹県議さん、平井県議さんがおります。

御案内のとおり2年前にもお話したかと思いますが、どうしてもあそこの交差点の道路改良をしなくてはいけないというのがもう先決なんです。これにはやっぱり地権者がおられて、今の図面から見まして、今の道路を改良してできるんじゃないかと、やっぱりできれば4つ、交差点にしなくちゃいけません。変則という文字を変えないといけないんですね。

そのために用地を買って、そして例えば、新興団地ができていますけども、その道路に筑紫ガスの前を通っている道路をどこかでセッティングさせて、その道路を生かしてもっていくという形。一方通行はできますけれども、極端に言ったら3差路にするという形をしないと信号機はできない。そのために今、熊手部長が言いましたけれども、市としましてはその原形の測量は県と一緒にやりましたので、御報告があったと思います。そこまで進展してきましたので、その進捗した過程の中で、今度は地元の地権者と交渉しながら、具体的に具現化していくという形に今からなっていくんだろうと思っています。

なかなか若狭元区長の頃から何年もたっておりますので、そのぐらい長い期間かけて地元としてはたまらないという気持ちはわかります。なかなかそう簡単にいかないというところは一つ御了解いただいて、市としてもこういう機会をつくっていただいて、さらに認識は改めましたし、県も具体的に動いてきたというのがやっぱり原竹議員たちの力でございますので、そういうところもセットしながら前向きに進めていきたいと思っておりますので、御理解をお願いしたいと思っております。

○（事務局） それでは、これからフリートーキングの時間を少し設けたいと思っております。

す。藤田市長に直接聞いてみたいとか、あるいは意見を言ってみてみたいとおっしゃる方があれば、せっかくの機会でございますので、どんなことでも構いません、遠慮なく御発言お願いしたいと思います。

○（防犯パトロール） 大林です。2つほどございます。先ほどの信号、整骨院から交差点を渡りますね。距離も長いけれども、そのところに余り水も流れていないんですけど、側溝があるんですよ。そこにふたをしてからロワールマンションのほうに、地主さんにお話してから譲ってもらえれば、整骨院から渡るのが必要なくなってくるんですよ。

というのが、整骨院からの交差点は高雄交差点から三洋電機のほうに左折する車、それから、三洋電機のほうから高雄交差点のほうに来る車、それから食彩館から三洋電機に来る車で、あそこいつも多いんですよ。それで、あそこを渡るよりもふたをしてから、ロワールマンションから渡っていけば、簡単と思います。

○（森部区長） 昨日御説明があったときも、同様な意見は私ども役員からも担当の方には申し上げております。

○（藤田市長） 側溝は市の側溝ですけど、隣接する地権者の了解をいただかないと、それはできないんです。ふただけかければいいというわけにはいきませんのでね。だから、その交渉も今からやっていかなくちやいかんと思っております。それはいい案、代案ではあるんですよ。しかし、地権者の方は、状态的にみて、今のままで置く状況ではないだろうと思います。模索を今一生懸命やっています。それは県の警察も市も一緒に、プラス地権者ですね。地権者も一緒になって考えてもらわないと解決しないという交差点であります。そこそこは今模索しています。

○（防犯パトロール） あそこにもし信号つけば、筑紫ガスから来る道は、もう渋滞しますね。学生の自転車があり道が狭いから、離合が大変難しい。

○（藤田市長） だから一方通行にしなくちゃだめなんです。こちらからは行くのはいいと思う。しかし、向こうから来られる方は、こっちに交差点に出ないで、道路に接続して出てもらおうという形にしないとだめです。

○（防犯パトロール） もう1点ありまして、普通のごみ袋は、大中小3つありますよね。ガラスや陶器類などの不燃物のごみ袋は、大きな袋1つしかございません。それで満杯になると、とても我々は抱えきれないんです。半分ずつ入れて持って行っているんですけど、半分だったらもったいないと思うんですよ。だから、できれば大中小というような、もう1つ小さい袋があればどうですかという相談がありました。

○（藤田市長） それは貴重な御意見として承っておきます。私も今聞きましたけど、区長を通してお話をさせていただいて、区長会あたりで取り上げさせていただくという形でお願ひします。

○（福祉部） 先ほど公民館の話が出まして、ここは100人も入らない。敬老会でも大体300人近いということで、全部来たら入りません。大体80人ぐらいで、ぎりぎりになっています。どうしても会場が狭いということで建てることにはなりますが、それで準備委員も立ち上がるということですが、土地がまず、この土地でいいかどうか非常に心配しているわけです。どっか適地を市が確保してもらえないかなという。まだ先の話なんで、この土地では、駐車場もない、2階建て、3階建てになると高齢者でとても使われないから、土地をどうするかがまず建設の前に問題があります。今後いろいろ建設に入ったら、御相談をするかと思いますがひとつよろしくお願ひします。

○（藤田市長） 森部区長の曙の歴史からいろいろ曙の状況を話される中にありましたように、平成29年度には完成をみたいという公民館建設の話がありました。今は190坪で、建物は70坪強の公民館。敬老会もここでするのには狭すぎる。最初は44世帯180人ぐらいでしたから歴史をおいてきて、これだったら間に合うといった時期もあったんだろうと思います。もう今、とてもじゃないですが、間に合いませんよね。

今、公民館建設をされている行政区もあり、去年は東新町と牛島が建てました。今、馬市と筑紫も建てていますが、この公民館建設の土地については地元が購入です。そして免税といいましょうか、税金がかからないようにしていくという形の中で市の土地として認めるという形になっていますね。土地は市の名義になっていますが、免税するための便宜上の措置です。ですから、購入は地元でしていただきたい。それで建設については約2分の1、基準がありますので、基準ののっとして進めていきたいと思っております。

○（福祉部） ここで建つとって持っていったら、これは基準に合わんで、ここじゃ建てられないということは。

○（藤田市長） いや、それはないと思うんです。190坪ありますから、それで建てて、今駐車場が要りますよね。そういうことから考えたらちょっと厳しいかなと思います。

○（福祉部） 2階建てや3階建てにすれば十分だけど。

○（藤田市長） 今大体平屋ですよ。もうバリアフリーですから。

○（曙町区） 公民館の建設に絡めて伺いたいのですが、今、二日市のコミュニティ構想が進んでいます。いずれコミュニティセンターというのは小学校の校区単位ということだと

思うんですがね。そうすると、この公民館の建設問題とコミュニティセンター、これ無駄にならないように、一緒に将来構想としては検討しておく必要があるんじゃないかなと思うんです。

多分これはポジションが違うというか、コミュニティセンターがこちらの役割とか違う意味があるかもしれませんが、後で、なぜあのとき一緒に検討しておかなかったのかという問題はあると思うんですよね。そういう意味では、公民館建設については、市の方ともいろいろ御相談しながら進めたほうがいいんじゃないかなと思っています。

○（藤田市長） 御存じのとおり小公連というのがありまして、公民館の組織はそこでやっていますね。それからコミュニティセンターというのは、小学校区ですから11館つくらなくちゃいけないんですが、一応7館でスタートしよう。非常に無理はあるんですけども、それでエリアを決めて今やっているんです。

そのときにコミュニティセンターと公民館との接合、どういうふうな利便性を図っていくか、それは一つの行政サイドから見たときには、小学校区というエリアでコミュニティを図っていただく、要するに自助・共助・公助を図っていただく。82行政区で85館ぐらいありますけど、公民館はもっと小さい地区でコミュニティを図っていただく。いずれ自助・共助・公助になるわけですから、公助だけでは絶対務まっていけません。

ですから、ここでやっていただいているように地域のサロンあたりはそこで充実していただく。しかし、もっと大きい地区、小学校区というコミュニティはそこでやる。公助の市役所は、そこにいろんな予算あるいは行政のやってもらわなくちゃいけない、そういうものをずっと下ろしていく、職員もだんだん配置していくようになるだろう、今、大野城市がやっているような方式になっていくだろうと思います。しかし、大野城市は40年かかってつくっていますから、うちは今スタートしていますので、今しっかり、その所管の職員は、頭ひねって、ものすごく頑張ってくれています。

○（事務局） 最後の項目で、藤田市長による曙町区に関係します平成26年度の筑紫野市の主な施策概要の説明をさせていただきます。

○（藤田市長） 平成26年度の予算は、もう4月から施行していますが、説明をさせていただきます。

最初に、民生費で、子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われるもので、予算の40.8%を占めており、その額が128億3,000万円です。

次は、公債費、市の借金を返済するもので、予算額が32億1,000万円、全体の

10.2%を占めています。

次に、土木費、道路や公園などの補修、建設に使われ、予算額が31億9,000万円、全体の10.1%です。

次に、総務費、行政の運営、戸籍、税金の徴収などに使われ、予算額が30億8,000万円、全体の9.8%です。

次に、教育費、教育や文化、スポーツなどに使われ、予算額が29億6,000万円、全体の9.4%です。

次に、衛生費、健康診断、予防接種、ごみ処理などに使われ、予算額が29億5,000万円、全体の9.4%です。

最後に、その他、議会や農業、商工業、消防などに使われ、予算額が32億3,000万円、全体の10.3%です。

総額は314億7,100万円となっており、これが今年的一般会計予算でございます。

次に、曙町でございますけれども、歴史、文化の豊富な地域でございます。このところは省略していきます。

最初は、「小地区公民館設置補助金」、予算額が2,502万9,000円です。公民館の修繕費用の一部を補助する金額の予算です。

次に、「児童福祉施設整備事業」、予算額が1億7,136万2,000円ですが、待機児童解消のため福岡県の子育て応援基金を活用しまして、あけぼの保育園の建て替え費用に対する補助です。

次に、「二日市中学校グラウンド再整備事業」ですが、二日市中学校はきれいになっているんですけど、テントも建てられないようなグラウンドになっていたんです。1年間はステージをつくって、やりましたけど、毎年費用がかかるものですから、今年つくりかえる工事を、1,678万6,000円かけて、でき上がりました。

次に、「二日市中学校雨水流出抑制施設維持管理事業」です。これは高尾川・鷺田川の浸水を抑制するために、中学校の下に貯水池をつくっています。そこで一時貯水をして、そして徐々に排水していくことをやっているんですが、その維持管理費162万円です。

次に、「読書活動推進事業」で、これは全小中学校に専任の図書司書を配置しており1,556万1,000円を予算化しています。

それから、耐震化は平成24年に小中学校全部終わったんですけども、まだ「小中学校非構造部材耐震化事業」を進めていかななくてはなりませんので、小中学校施設の天井や壁、

照明などの耐震対策の検証を行う。落下物とか転倒物による直接的な被害のほかに、避難経路の通行阻害等の二次災害を防ぐために、新規事業ですけど1,414万6,000円で、今進めております。

次に、「小中学校空調設備整備事業」、これは、もうあと何日かしたら仕上がります。夏休み中に小中学校16校、304教室を、5億2,676万8,000円かけて今やっています。2学期から全部涼しいところで授業ができるということです。それと、先ほど公民館とコミュニティということ言いましたが、今広島で大変なことになっていますが、もう災害が起きたときは避難する以外ないんですね。2次避難所として学校を避難所にしています。いつ起こるかわかりませんので、生徒のPM2.5という対策も、それから35度の猛暑に対応するためのクーラーでありますけども、2次避難所としての整備ということで5億2,000万余をかけたということも御理解していただければありがたいと思っています。

次に、「子ども医療費支給事業」、これは小学1年生から3年生までの入院費を市の独自助成としておりましたが、これを6年生まで広げました。この予算額が1,504万5,000円です。

次に、ひとり暮らしの高齢者の方の見守り活動、これも新規ですけども、この協定書を締結しますということですが、高齢化率が今筑紫野市は21.03%に上がってきました。ひとり暮らしの高齢者の方も随分増えてまいりました。そういうことで見守り活動を地域の方でしていただくということも大事でありますけれども、いろんな企業、ガスとか新聞とか郵便、そういう家庭訪問してある方との提携をしました。

さっきコミュニティの話をお原田副区長からしていただきましたが、今7つはこういうふうな事態で分けているんですね。当面は7つということでスタートさせていただきたいと思っております。これには非常に無理もありますけれども、曙地区の皆さん方は隣に二日市北小学校もありますし、コミュニティとしては二日市コミュニティなんですよ。非常に遠いんですけども、そういうところを地域は、曙は曙としての避難場所あるいはコミュニティづくりに、森部区長さん初め地域で活動してリーダーの立場になる皆さん方のお力を得ながら、何としても自助・共助・公助の地域コミュニティ自治をつくり上げていかなくてはならないと思っておりますので、御協力をお願いします。

以上、私の説明、簡単でございましたが、御静聴ありがとうございました。

○（事務局） 以上が、曙町に関係します平成26年度の市の主な施策概要でした。

それでは、最後に、藤田市長が皆様方にお礼の御挨拶を申し述べさせていただきます。

○（藤田市長） 今日、冒頭に申し上げましたとおり、広島で大変な豪雨災害が起きておりまして、昔で言いますと、1時間に30ミリの雨が降ると豪雨、災害が起きるといった時代がございました。今はもういつも50ミリが降っております。どこでもいつでも豪雨災害は起こりうるという今、気象条件があります。

我が市も7月2日から災害警戒本部を立ち上げまして、もう10回そういう災害本部を立ち上げました。朝3時くらいから県の防災メールまもるくんから、災害が出ますよと来たら、災害警戒本部を作るのですね。幸いなことに、今、災害警戒本部を作りますと、担当者が朝早く出て来て、皆、揃うのです。そして号令以下、全部配置していくのですが、特に、コミュニティセンターが6館、館長も主事も、もちろん出るのですが、そこに職員も3人ずつ張り付きます。そこが何をしているかという区長さんたちに今の状況を全部出す。土砂災害が出たら、土砂災害が出ました。豪雨災害が発令されたら、しましたと、逐次出していく。そのネットワークを去年組織を作って、今年から実際に始めていますが、『訓練は実践のごとく、実践は訓練のごとく』、これを合言葉にやっています。10万2千人市民の安全安心を守る拠点として、しっかりとこれはつくりあげていくべきだと、今、努力しております。

472名の職員が非常にスピード感を持ち、敏速に行動してくれるようになりました。この『人は石垣、人は城』というところがあれば、きっと市民サービスの向上、そして費用対効果を考えながら、市政の運営が成り立っていくだろうと思っています。一つには綱紀粛正を守りながら、腐敗とか汚職とかをしないように、飲酒運転をしないように、そんなことをずっと朝礼で言っているのですよね。皆しっかりと守ってくれております。

今日も本当に貴重な大事な地域の声を聞かせていただきました。大変ありがたく感謝申し上げます。これをしっかり持ち帰りまして、真摯に受けとめて、これからの市政運営にしっかりと役に立てていきたいと思っております。今日は、森部区長をはじめ、自治会の皆さん、またいろいろな地域で貢献してリーダーシップを取っていただいている皆さん方とのこのようなすばらしい会を長時間に渡って作っていただきましたことを心から深く感謝申し上げます、お礼の言葉に代えさせていただきます。

本当にどうもありがとうございました。